

## <白金標準、NY市場のショートカバーを受け堅調・・・>



(出所：オアシス)

世界の半数の銅生産を行う中国国内の精錬会社数社が先週に原料不足を理由に、精錬を減少させると発表し、銅価格は世界的な製造業の回復が工業製品の需要を押し上げると見方も重なり、LME市場で11ヶ月ぶりに9000ドルを回復している。そのためNY市場のPGMのオプション市場で記録的に積み上げられたショートポジションがショートカバーの巻き戻しを強めNY白金は1月以来の950ドルを超えて958.9ドルまで高値を試し、白金標準先物も一時4498円まで高値を試すなど、出遅れ感が強かった白金価格も3月に入り4251円から4498円まで247円の上昇に繋がり、WPIC第4四半期PGM需給報告で示した供給不足に伴う価格見直しの動きに思われる。

ただ昨年8月以降の高値が4534円、4504円、4517円で抑えられた値動きを示すなど、高値警戒の利食いが進む動きも見せており、今週のイベントの日銀金融政策決定会合やFOMCを控えている事を考慮すると、目先は高値に対する警戒感を強めた値動きに思え、戻り売り基調には注意が必要と思われる。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇している。またRCIでも短期が+95%で横ばいし、長期は切り上げるなど強気の域を維持しており、天井を取った相場には思えない。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,390,000 円(2024 年 3 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 3 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>